

令和3年1月4日

各位

一般社団法人データクレイドル

## 日常から「備える暮らし」を提案するアプリ 『まちケア・コモンズ』※をリリースいたしました

一般社団法人データクレイドル（岡山県倉敷市）はこの度、日常からもしもの時に「備える暮らし」を提案するアプリ、『まちケア・コモンズ』※をリリースいたしました。

「まちケア・コモンズ」は、日常の生活の中に「当たり前」に防災がある暮らし”備えながら暮らす”ためのアプリです。

地域の災害リスク情報、防災施設情報と、公共施設や医療・介護施設、健康と安心安全な暮らしのための商品・サービス提供企業・店舗等の地域社会資源情報を活用した次のメニューを提供します。

リスク確認で備える「マイマップ」

避難に必要な物資を備える「マイローリングストック」

もしもの行動計画で備える「マイタイムライン」



「もしも夜なら」、「もしも一人で自宅にいたら」、「もしも仕事先なら」と様々なシーンを想像して、複数の避難先や行動計画を考えて、ご家族や親しい方と話しあっていただくきっかけとなることを願っています。

マップには備える暮らしに役立つ岡山県の地域資源情報を掲載しています。今後、順次地

域を拡大していく計画です。また、より良く暮らし続けられるまちづくりには地域の企業・店舗様の「商助」の力が欠かせません。地域の企業・店舗様に協力をいただき掲載情報を増やしていきたいと考えております。

地域を良くする活動をお考えの企業・店舗様とのパートナーシップ、『まちケア・commons』を通しての社会貢献活動のご相談もお受けしております。

『まちケア・commons』は App Store、Google Play から無料でダウンロード可能です。



Android



App Store

HP : <https://machicare.com/>

■監修 高知県立大学減災ケアラボ 神原咲子教授（岡山県倉敷市出身）

日本でも、大規模災害や感染症発症など、健康の緊急事態を目の当たりにしてきました。人々はまちの中で多様な生活をしています。これからは、個人個人とコミュニティにとって何が安心で安全で健康か、どのようにリスクを回避できるか、と考え全く新しい取り組みを共創していくことが必要と言われていますが、都市化の進展や少子高齢化、核家族化により、地域の互助が減少し、それもなかなかかなわなくなり、しかし、情報通信技術の進展によって、新しい、近所を超えた共感できるより広い範囲の人々とつながることができるようになってきました。

『まちケア・commons』は医療・防災よりむしろ、安心な暮らしのために、しいては、SDGsの達成の一助も目指しつつ開発されました。ぜひ、新たなコミュニティの作り方と生活の中の備えを体験してください。

---

【問い合わせ】

一般社団法人データクレイドル

〒710-0055 倉敷市阿知一丁目7番2 ぐらしきシティプラザ西ビル 706

Tel.086-427-0885

Mail.info@d-cradle.or.jp

担当:大島、安達

※令和2年度「地域・企業共生型ビジネス導入・創業促進事業補助金」に採択いただき開発いたしました。